大学の視聴覚施設めぐり

水野　光晴

金木犀の香る晩秋の11月９日、筆者は大阪府狭山市金剛にある帝塚山学院大学の視聴覚施設を視察する機会を得た。そこで、ここにその報告と筆者の感想を述べてみたいと思います。

帝塚山学院大学の視聴覚センター（以下ＡＶセンター）は、初代室長がＮＨＫ放送研究所の出身であったことから、現在では極めて入手し難いとされるＮＨＫの放送番組シリーズの録音、録画ソフトを豊富にそろえている。

このＡＶセンターを利用する場合、ＡＶセンター内に袋物の持ち込みは禁止されているので、不要な荷物は展示ホールに設置されているロッカーに入れる。ＡＶセンター内での飲食はすべて禁止されている。学生はＡＶセンターの受付で自分の図書閲覧証を提出して、使用目的に合わせたタグ（座席指定札）を受け取り、指定されたキャレルで視聴する。各種の資料はキャレルのまわりの棚に並んでおり、自由に取り出して利用することができる。また自分が必要とする資料がどこにあるかを知りたいときは、ＡＶプラザにある「資料目録カード」で調べる。キャレルを使用した学生は、必ず電源を切って元通りに整頓してから視聴した資料およびタグをカウンターに返し図書閲覧票を受け取る。

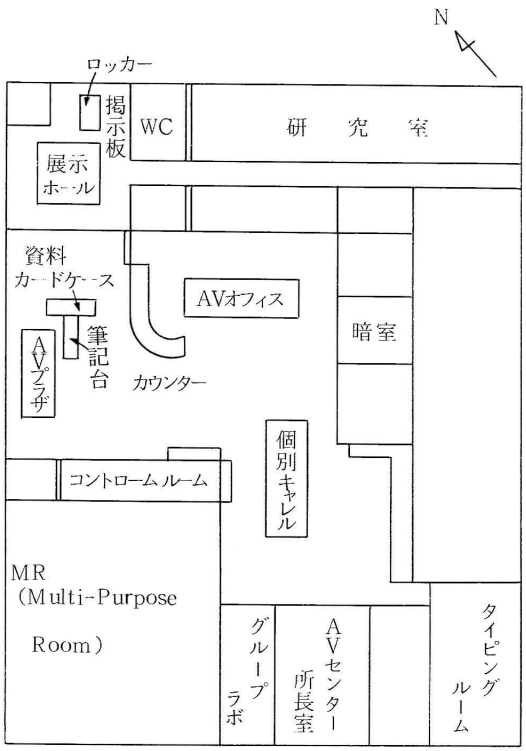
帝塚山学院大学のＡＶ施設には多目的室（Multiple-Purpose Room）、グループラボ、タイピングルーム、パソコン演習室、個別キャレルなどがある。多目的室は約100名まで収容可能である。ここでは、講義を行ったり、スライド、レーザーディスク、ビデオなどを視聴することができる。このような教室は２部屋あるが、とりわけ印象的だったことは、教卓の横にあるコントロール・デスクのボタンを押すだけで両側のカーテンが一斉に開閉できること、さらに、ビデオ視聴時に学生がメモを取るためにダウン・ライトが設置されていることであった。このようなことは、しばしば小さなこととして見過ごされがちであるが、授業の効率を考えるならば、教師の側においても、学生の側においても看過されるべきことではない。

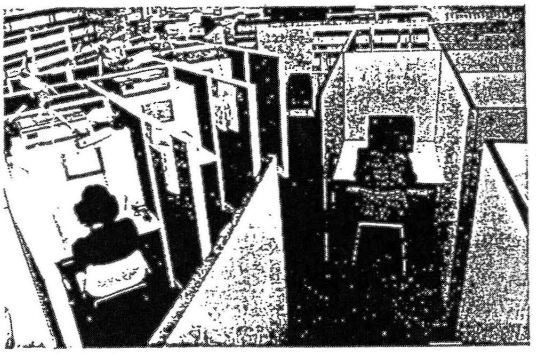
グループラボでは、10人程度のグループでスライド、レーザーディスク、ビデオ、ＣＤなどを視聴したり、視聴覚作品を製作したりするのに利用される。

タイピング・ルームは、タイプライティング練習のための教室で、タイプを受講した学生、及び現在受講中の学生に利用が制約されている。

パソコン演習は、コンピューター操作を演習授業で指導するための教室で、20台のパソコンの表示画面を一つ一つ教卓の受像機でチェックできるばかりでなく、教師が学生の行動を展望できるようにとの配慮から、演習用のパソコンの高さは140cm以下にしてあるとのことであった。

さらに、個別キャレルにはビデオ（β、Ｕマチッ





ク)、レーザーディスク、カセット、ＣＤ、日本語ワープロなどのキャレルが用意されている。ＣＤのキャレルには、カセットデッキも併設されていて、クラシックオペラなどの音楽鑑賞用として、オーディオのキャレルがある。また、ビデオやレーザー・ディスクは２ヶ国語の映画を見ながら英会話の勉強をすることもできる。これらの各キャレルは、パソコン演習室のように、キャレルの利用者を何処からでも監視できるようにとの配慮から、キャレルの遮蔽壁は、140㎝までにしたとのことであった。

帝塚山学院大学のＡＶセンター所轄の機材を列挙すれば次のようになる。すなわち、

Ｕマチックビデオ、ＶＨＳビデオ、
ベータービデオ、ＯＨＣ(オーバーヘッドカメラ)、
オーディオテープ、スライド、レコード、16ミリ映画、ＯＨＰ（オーバープロジェクター)、
ＬＶ（レーザーヴユーアー)、
ＣＤ（コンパクトディスク）等々である。

最後に、この大学にあるソフト・メディアのリストをコピーしていただけないものかと筆者が遠藤氏にお願いすると、別れ際に厚みにして７㎝にも及ぶソフト・メディアの詳細な資料を手渡された。そこで、主任の遠藤氏と助手の石森氏には幾重にも感謝の辞を交わし、夕闇迫る校門を後に別れを告げ、錦織りなす紅葉の坂を一人歩いて下った。